

「がん医療についてのアンケート」(180名。回答率：70%)

1. 皆さまに：

- 質問①がん診療拠点病院（阪大病院、吹田市民病院、済生会（吹田・千里））にがん相談支援センターがあ
って、がん患者・家族が相談できることを、
②がん予防について、
③早期発見・早期治療のために、

(1) 男女計：

質問	選択項目	～64歳	65歳～	75歳～	計	不明	合計
① 拠点病院	知っている	36	37	20	93	5	98 (54%)
	知らない	25	38	14	77	5	82
② がん予防	心掛けている	42	54	26	122	8	130 (73%)
	関心がない	5	2	1	8		8
	分からない	14	18	5	37	2	39
③ 早期発見・ 早期治療	心がけている	39	50	22	111	7	118 (69%)
	心がけていない	15	15	5	35	1	36 (21%)
	分からない	6	7	2	15	1	16

(2) 男：

	質問	～64歳	65歳～	75歳～	計
① 拠点病院	知っている	5	8	4	17 (53%)
	知らない	3	7	5	15
② がん予防	心掛けている	5	11	8	24 (73%)
	関心がない	1		1	2
	分からない	2	5		7
③ 早期発見・ 早期治療	心がけている	5	9	6	20 (65%)
	心がけていない	2	5	1	8
	分からない	1	1	1	3

(3) 女：

質問	選択項目	～64歳	65歳～	75歳～	計
①拠点病院	知っている	31	29	16	76 (55%)
	知らない	22	31	9	62
②がん予防	心掛けている	37	43	18	98 (73%)
	関心がない	4	2		6
	分からない	12	13	5	30
③早期発見・ 早期治療	心がけている	34	41	16	91 (70%)
	心がけていない	13	10	4	27
	分からない	5	6	1	12

2. がん患者さん（ご経験の方も）・ご家族の皆さまに：

(1) あなたは：(81名は、回答者の45%)

		～64歳	65歳～	75歳～	計
治療中	男	1	1		2
	女	3	4	2	9
	計	4	5	2	11
サバイバー	男	1	5	2	8
	女	1	11	3	15
	計	2	16	5	23
家族	男	5	3	1	9
	女	11	20	7	38
	計	16	23	8	47
計	男	7	9	3	19
	女	15	35	12	62
	計	22	44	15	81

(2) がんと診断されてこれまで、お悩み・お困りになったことがあれば：

○年：①～64歳 ②65歳～ ③75歳～

○あなたは：①治療中 ②サバイバー ③家族

(男) 記入：7人。

質問	年	あ	
① 情報や相談	3	2	告知を受けたときは、どこへ相談していいか分からなかった。
② 治療	1	1	抗がん剤後の後遺症の対応。
	3	2	専ら、医者言葉を信じて行動した。
	3	3	自分の経験のため、無理に治療をしたがる。

③ 経済的な面			
④ 就労問題	3	3	在勤中で、仕事が出来なければと不安を抱えてきましたが、仲間に出会えたのが良かった。
⑤ その他	1	2	吹田市内の検査技術の優れた病院で、術後の検査をしてもらっているが、人として扱われていない気がしている。
	2	3	メンタル的な問題。
	2	1	健康で今まで生活してきましたが定期健康診断で発見できました(バリウム検査)。3年に1回は内視鏡検査を行っていましたが、2年目のバリウムで発見、胃の全摘手術で現在半年経過しました。副作用を改善しつつ、1年間T S I 抗がん剤の適用を行っています。 反省としては！！生活習慣と1年に1回は内視鏡をお勧めします。バリウムで発見の場合、胃の全摘となり手遅れ！！初期での発見はバリウムでは手遅れ(手術で最低2/3摘出となる)となりますよ！！ 行政は、1年1回内視鏡を進めるべき！！
	3	3	気の小さいものまで告知は酷。家族に任せてください。患者は、医者に言われると「イヤ」とは言えない。また「リスク」を持つと「ハッキリ」と強調してください。 「クーリングオフ」は医者にも適用すべき。家族の同意も大切。

(女) 記入者：24人。

	年	あ	
① 情報・相談	1	3	家族会などあれば、参加したい。
	1	3	抗がん剤の使用を受けた方がいいのか迷っている。
	2	3	相談するところがあるのを知らなかった。
	2	1	不安で、どんな情報でも得たかった。
	2	2	精神面でのケアが欲しかった。
	3	1	本を読んでも良く理解できない。
	3	3	ホスピス市民塾があるのを知って安心している。 家族は淀キリで安心して安らかに見送れた。ホスピス病棟に入れ、幸せだった。
	3	2	市民塾があつて、心強いです。
② 治療	1	3	副作用や本人の体力の低下がひどくなったら、どうすれば良いのか？
	1	1	大きな病院に通院しています。担当の先生とうまくコミュニケーションが取れず、辛い事が良くあります。
	1	3	父が長年糖尿病で神戸の市民病院に通院していて肺がんが発覚。長年の先生がいるため転院せず、治療もすべてそこで行き、最後は自宅で看取りました。 他にもできることがあったのではないかと思います。でも、相談できる先生や病院も知らず、本人も面倒くさがる、しんどいなどの理由で終わりを迎えました。 本人が行かなくても、家族が気軽に相談だけでも出来る場所があればと思います。
	2	3	もっといろんな方法があったのか知りたかったです。
	2	3	1990年、娘が阪大病院で「悪性リンパ腫」で治療を受けたが、治療の選択は知識がないとできないので、勧められるままの治療を受けた。正しかったかどうかわからない。
	2	2	気安く話せる先生だと良いと思った。
	2	3	痛みのない治療、副作用の辛さ。
	3	1	先生の言われるままに。
	3	3	痛くなく逝ければ無理な治療はいらない。
	3	3	日進月歩を感じています。
③ 経済的な面	1	3	国民年金と母のパート代でこれからの治療費が払えるのか？ 昨年の収入の計算のため、一般課税所帯です。
	1	3	お金がどれだけかかるのか見当がつかない。
	1	1	健康に勝るものはないです。医療費は大変です！
	2	2	高額医療制度で助かりました。
	2	3	昨年の収入計算のため、一般課税所帯になり、治療費、生活費の支払いの不安。
	3	3	保険に入っているが・・・足りるか…？
	3	2	何とかなるか？と楽観。
④ 就労問題	1	3	家族として、介護と仕事とで迷った。
	2	1	抗がん剤治療中、仕事ができるか不安だった。
	3	2	深刻ですね。
⑤ その他	1	3	治療後の家庭での過ごし方、終末期の迎え方
	1	3	本人が余命のことを理解していない。理解しようとしない。
	1	3	85歳の母。アルツハイマーで10年以上食べなくなり（本人の意思で）胃ろうを増設したのに、高カロリーが胃に入ると高熱が出て（関西医大の肝胆膵の医師に看てもらおうと、胆のうに3～4cmのしこりがあるとのことでした。

		悪性かどうかの検査もせず、全く手術をしない事を奨められたので、見守っていただけです。IVHのみで生きています。 11月から在宅で看たいと準備中なので、今日のお話をお聞きでき、良かったです。
1	3	治療不可となった場合の過ごし場所、自宅で過ごさせたいが、仕事をしながらは無理かと思った。
2	3	親身になって相談に乗って下さる医師がいて、家で最後まで過ごすことができました。
2	3	父は胃がんの手術を受け、一旦は退院しました。しかし、通院後気持ちがハイになり、たくさんの買い物をしたり、母（妻）にととてもきつい事を言ったりしました。入院後にこのような状態になるということが、後で知りましたが、その時は家族がととても痛い目に合いました。 父はその後、別の病気の治療で入院し、入院中に肺炎になり、それがもとで亡くなりました。 医師は手術に関する事は色々説明がありましたが、手術後のケア（家族も含めて）についても、もっと教えて貰えたら良かったと思います。
2	2	私は4年前、中咽頭がんで阪大で、放射線、抗がん剤を受け、その後手術をしました。幸い再発もなく元気に過ごしています。だから放射線、抗がん剤の後遺症は4年たった今でも、いろいろあります。これからは、がん治療も進んでいくので、後遺症が出ない（少ない）治療法になっていく事を期待しています。
2	3	治療で放射線を大量に投与され、妊娠できない体になったこと。（娘）
2	1	抗がん剤中に、好中球減少症になり、抗がん剤を中止した。再発転移のリスクがあったのではと不安になったが、先生の本を読んで、これで良かったのだと、今は思います。
2	3	すべてのことを相談できる場所があれば。
2	2	自分なりに学び、食事療法しながら丸5か年になりました。現在は1年に1度血液検査、細胞検査を行っています。異常なしを頂いて嬉しく思っています。感謝です。
2	3	治療後の家庭での過ごし方、終末期の迎え方、これからの生活費、自身の体調の不安。
3	2	がん手術して5年ですが、転移しないか、いつも心配です。
3		C型肝炎なので、いずれは肝がんかと思う。
3	2	まだまだ未受診、手遅れがあつて残念です。
3	3	もう終わってしまったことなので、これからのことはおいおい考えます。

3. コメント（小澤）

- (1) 総括：講演会のアンケートの回答率60%を上回る70%の回答率、とりわけ患者・ご家族へのアンケートは、辛いお気持ちに塩をつけるようなこともあったかと思いますが、熱い思いを吐露して、赤裸々なお気持ちをぶつけて頂いたこと、心から感謝し、これからの活動のエネルギーとさせていただきます。
- (2) 拠点病院・予防・検診の3点の質問（表1）：男女ともほぼ同じ比率。
⇒がん関連の講演なので、お見えの方ががんに関心をお持ちの方かと推察できるので、若干数字が大きく出ていることが考えられる。更なる注力が必要と考えます。
- (3) がん患者・家族のお悩み・お困りのこと（表2）：回答いただいた方81名。アンケート総数の45%。
まさに、2人に1人。家族を介護されるご婦人のご苦勞の姿が想像できます。
⇒お書き頂いた31人の皆さんの「本音」のお話に胸を打たれました。
私たちの10年の活動は、漸くスタートの緒についた感じです。これからは、凝視、医療職の皆さまに患者・家族の本当の気持ちをシッカリお伝えして、共に、「がんになっても安心して暮らせる吹田のまちづくり」に更なる努力を重ねていきたいと思ひます。 以上